



立憲民主党 としま
区議会レポート春号
The Constitutional
Democratic Party of Japan
元厚労大臣ながつま昭 元秘書

政治とは弱き者に
光をあてること

川瀬 さなえ



こんにちは！豊島区議会議員、川瀬さなえです。

寒さの中にも、春の暖かさを感じられる季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

コロナウィルスの感染拡大や社会情勢の影響に伴う物価の高騰など、区民の方々の暮らしが政治に大きく振り回されています。格差拡大、社会の分断ともいえる貧富の差が広がった現状をフィールドワークから感じることも増えました。お寄せいただくご相談件数も増えています。お困り事を独りで抱えていませんか。悩みや気持ちを整理するだけでも解決に繋がる場合がありますので、お役に立てることがあるかもしれません。どうぞお気軽にお問い合わせください。

これまで議員として、皆さまの声を幅広く聴く機会に恵まれ、現場の様々な課題をどのように政策と結び付け制度を作るか日々取り組んで参りました。皆さまと共に声をあげることで政策が実現し、区政を変えることが出来るのだと実感しています。私だから見える現実、聞こえる声があります。

一人一人の暮らしを守り、未来を守るため、皆さまと一緒に「声なき声」を区政に繋げて参ります！

引き続きお声をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。みんなの声で、このまちを変えよう！

豊島区議会議員 川瀬さなえ

「政治の力を一番必要とする人は、政治から一番遠くにいる人である」それが議員活動の原点

豊島区議会議員 川瀬さなえプロフィール

1972年 8月 新宿区生まれ

2011年 豊島区立池袋第一小学校。PTA副会長を2年務める
2人の娘を育てるシングルマザー。

職無し、貯金なし、住居なしの状態から週6日のダブルワーク、塗装会社、医療事務職を経て国会議員秘書へ。社会の不条理、制度への不満、不備を感じ、それが個人の問題ではなく、多くの人が声を上げられない状況にあることを知る

2014年 元厚労大臣大臣 長妻昭 私設秘書

2017年 元国家戦略担当大臣 荒井聡 公設秘書

2019年 豊島区議会議員初当選

世の中の理不尽な思いに声も出せず、もがきながら暮らしている社会を変えたい！私は国会議員秘書として、法律が作られる様子や官僚とのやり取りを間近で見してきました。4年間、掲げる政策実現のためにがむしゃらに働いてこれたのも、政府を追及していく姿や官僚と意見を交わしながら法律を作っていく議員の背中を見てきたことが私の議員活動に役立ちました。社会を変えていくには、真っ向から立ち向かうだけでなく、地道な調整も必要です。弱き者に光をあてる政治を豊島区でしっかりと旗を立てていく先頭に立っていきます！

令和5年度豊島区予算が可決されました

どこまでも現場主義。川瀬さなえの目指す5つの基本政策

福祉・医療・介護

変える。健康で笑顔あふれる豊島へ

- 生活困窮・障がい・介護・子育て等、分野を超えて連携し、伴走支援を進めます。
- 住まいの支援を拡充し、住み慣れた地域で誰もが暮らせるようにします。
- 介護や生活で困っている人への支援を拡大します。
- 障がいの働きやすい環境づくりと工賃の引き上げを進めます。
- 様々な困難を抱えた人たちの安心できる居場所づくりのサポートをします。
- 人権の尊重と多様な生き方を認め合える豊島区へ。
- LGBTQ理解促進を進めます。
- 医療的ケア児支援の充実に取り組みます。

子ども・若者

変える。安心の子育て、夢の実現を応援する豊島へ

- 妊娠前、妊娠、出産、産後、育児と切れ目のない支援を拡充します。
- 給食費の無償化、教育費の軽減等、安心して学べる教育環境に取り組みます。
- 子どもの最善の利益、意見表明権等、子どもの権利を守ります。
- 部活のあり方等、教職員の長時間労働・職場環境を教職員、関係者と一緒に改善します。
- ひとり親世帯が安心して子育てできる街No1を目指します。
- 保育士の待遇改善と質の向上に向けた施策を推進します。
- 次世代へつなぐ安心の未来を守ります。

地域経済

変える。もっと元気な豊島へ

- 地域資源の活用を支援します。
- 中小企業を守るために指導監視を強化します。
- 交通弱者の移動手段を守ります。
- インボイス制度の廃止を求めます。
- 都内空き家率ワースト1位の汚名を返上します。
- 区民の声を反映したまちづくりを進めます。
- 豊島区内の空き家の利活用に補助金をつけ、住居店舗の再生を推し進め、地域経済、人との交流を活性化させます。
- 母子・若年女性のシェアハウス普及促進
- ペット同行避難の周知啓発を進めます。
- 災害協定の見直しを求め、時代にあった変更を進めます。

ジェンダー平等

変える。みんなが輝く豊島へ

- あらゆる政策にジェンダー平等の視点を入れます。
- 困難な問題を抱える女性の支援体制を拡充します。
- ジェンダー平等の視点を入れた防災対策を進めます。
- 選択的夫婦別姓制度の導入を地域から目指します。

議会改革・地方自治

変える。地域のことは自ら決める豊島へ

- 住民と意見交換等、議会改革を進めます。
- 国と対等な地方自治を確立します。
- 特定の団体などに政治を歪めさせることなく、正しい政治を進めます。

川瀬さなえが議会で提言し、実現した主な政策を紹介

- コロナ禍で経済的に困窮するひとり親世帯への区独自5万円給付
- 若年女性の居場所支援(すずらんスマイルプロジェクト発足)
- 生理の貧困対策、防災備蓄を利用した生理用品の活用
- DV相談窓口の周知案内カード、女性用トイレ設置
- 養育費確保支援事業の推進
- 医療的ケア児支援を協議する場の設置
- 障がい者就労支援、工賃Up
- 妊娠届の書式改正
- マイボトル推奨、給水機設置
- ペット同行避難の周知啓発促進、避難所開設マニュアル改定
- 母子・若年女性シェアハウスの完成
- 未就園児の保育園一時預かり拡充



国会議員と連携し勉強会や省庁へ要請活動をしています

一般質問や委員会の審議をする際には、事前に現地調査や関係資料を読み込み、ヒアリングを重ねながら質問を考えます。法律の改正や国の動向を注視しながら、地方自治体として何が出来るのか考えます。目指す社会像を共有する他自治体の議員と日頃より勉強会を開催したり、意見交換することで専門性の高い政策を豊島区の状況に落とし込み施策を考えることが出来ます。コロナ禍で視察ができない上京が、全国の地方議員や国会議員とオンラインでつながることで視察以上の気づきや学びを得られる環境になりました。



地域では子ども食堂や食糧支援、生活相談など、半径5メートルの身近な存在として活動しています。

子ども食堂や、生活にお困りの方々への食料支援、ひとり親世帯の生活相談や子育てボランティアなど身近な存在として地域で活動しています。よく周りの方から「議員さんってもっと偉そうにしてるかと思った」と言われます。普段からカジュアルな恰好なので溶け込んでいるのだろうと思いますが、子育て中の母であり、働く女性であり、高齢の母の介護を考える娘であり、同じように悩みを抱えながら生活する者として、代弁者でありたいと思っています。

